小新聞：仮名読新聞 115 号 1876（明治 9）年 6 月 25 日刊　〔ニュースパーク日本新聞博物館蔵〕

官許 假名讀新聞 第百十五號
明治九年六月廿四日 土曜日
隔日出版

官令

○乙第五十三號　府縣

新器水枡量組の儀度量衡種類表を掲載有之候圖面の通原器製作先般和達候處其後右枡組の儀切組底にてい製作の工拙と木材の良否に依り底部膨脹相開候弊も有之哉に相聞候條右底組の儀い打付底に製作いたし候分共取交相用不苦候條此旨相達候事

明治九年六月廿一日　大藏卿大隈重信

新聞

○來る廿八日午後二時半より淺草觀世音本堂にて猫間供養の大施餓鬼記が有ますから嘸喜合仰のお方は五參詣あられませう施主い日報報知朝野を初め諸新聞の記者達が名前ダァ〳〵

○神田富山町十二番地に住む人力車夫關岡真藏は二十二日の八時頃淺草諏訪町を通り懸ると六十二三の老人ダ俄に病氣ダ發った樣子で歩行く事の出來ぬのを看かけ種々と介抱してやつとの事で住所を聞くと飯田町中坂と解ったので車へ乘せて施りながら徐々と引出しましたが送り届けてねだるやうな人物ではなかったと探訪者の話し

○身の決白を立るとの心得違ひから死ぬ氣になるのい理義ぶ嗜い女の淺草本所中の郷竹町廿九番地飯島寅松は今月十三日の夜所持の金圓が紛失したので女房を孤延里方へ預ると聞妻のおなつは忽ち逆上して同十五日の午後二時頃井戸へ身を投たを疾くも氣ガ附き引揚て看護をする內同く二十日の午後八時頃復驅出して大川端の際にイみ虚霹つく所をお巡吏がお出になり瘋癲と看て其家に送ると家內無人で看護も出來兼升から何卒一兩日お拘留を願ひたいと本夫寅松の不實を願ひによく〳〵お諭しで同人へ引渡されたと申す事疑惑は不和の基邪推を廻すとてんな間違ひが出來ますから深く考へて口は利く者で有升

○淺草寺地中日音院の地內ゐ住む花屋小織といふ藝妓は近頃猫連の評判ダ惡いので泥凖で上ッても新聞で顔を汚される事になるから蹴蹴きのない內早く足を洗い体と觀音へ日參をして坐敷を引く時節を願ふ內四五日前の日暮に例の通り參詣に行と本堂の階段へ腰を掛けて十一計りの丁稚ダメッ〳〵泣いて居るのを小織い看兼て樣子をきくと僕童い駒形の松屋といふ呉服屋に雇れて居る音七といふ者で五在ますダ此樣大きい反物の包みを持ッて遠道をしましたのでモッ歩行けなく成ましたとすゝり揚るので小織は哀れな事に思ひ日暮だから妾ダ半分肴負てあげやうと替風呂敷へ包み分て子僧を遂しながら松屋の店頃まで肴負て行ましたダ斯いふ藝妓なら重荷を肴負ても大丈夫轉ぶ氣遣ひいなからうとの風說であつた

○當港馬車道の丸竹と富竹の兩席へ毫夜出席するのん〳〵先生（田邊南龍）は散髪の締り新參開化頭始めてのお目看なダら短夜ゆゑか天慾敷ダ不揃ひなダ畳席と例の通りすん〳〵とくり込みまセ

○七人の子い生す共女ゐ心殺すなといヤト時代の引諺で有ますダ他人の牝馬に乘ッた日ゐい猶更の事慎ますんば有可からず千葉縣管下下總國懸より目と鼻宿の江戸町に隱れなき料理茶屋の女房い四十に餘る大年增盛り過ても遲遲慨ゐくなダめも（吉）の川（妹山春山と隔つとも迷ひの道い近邊の金の茶（釜や）銀藏鐘持丸家の相續人と小夜衣の夫重ねも素より牝狸の金玉引魅して取込む度々の無心流石ゐ三十男の分別遲苗ながら目ダ覺たの足を引いて遠避るとよし夫ならばゝいさ餘ッて憎さも憎しと是迄の內幕を本夫ゐ殘らずぶちまけると本夫も嫉妬沸して看たが對敵ダ金の茶釜の持丸よい釣針と夫鐘馴合或日自己い餘處へ外し彼金釜大盡ダ我家へ釣寄せ女房ダ据膳の强讐に久し振での狎々洋犬娼妓氣取の氣休め最中姦夫見附た動くなと蒲團の上ゐら馬乘騒きに扱ひ人ダ飛込ンで金百圓の掛辨と約定の料理投排庖丁の手も濡らさず懷中へ収めて夫ゐら直に東京へ轉び猫の仕入方に出ゐけたい二三日以前と同地の藏刈摂太郎さんから寄書ダ有ました

○今月六日該當辨天通出火の節施金を出した當港三井組名代赤緒田村の兩人原善三郎茂木寂兵衛渡邊福三郎平沼專藏第二國立銀行鈴木利平は奇特の御賞として銀盃一箇兜川井文次郎神田銀藏左右田金作西村喜三郎西村金兵衛は同斷に付木盃一箇宛下賜のお達しが一昨日縣廳で伸せ渡されました

○〳〵申し上ます僕は當港の伊勢崎町五丁目山本湯の釜前で稻田權之助（三十一年）と申す者で五在ますが今月の十七日に長者町九丁目の親分星野桑次郎方から山本へ雇れて參りましたダ二十一日の午後四時頃頻りゐ遊興たい出來心で雇主辨藏の錢箱を破毀して中から金四圓餘を搾路ぢかし程ダ谷驛の貸座敷で一文なしに遣ひ捨ましたから自訴して出ましたと翌二十二日の朝ッ腹に四號の屯署へ驅込ンだ馬鹿押の强い浴室夫が有ましたが蹄の皮より餘程面の皮の厚い野郎だ是では鰹石では消て炭ますまい

○東京横濱の間は當夏に向いてから雨勝で有ますダ神戸邊は照ダ續いたと看へまして同港の新聞ゐ（第二百八十七號六月廿日）先頃より非常の干魃で何村も彼國も植付は出來ず偶には苗の赤くなつて枯ゝ〻しし所ろもあったゆゑ嘸ッて米價も ヂリ〳〵騰貴勢ひなりしダ幸ひ一昨晩（十八日）より覆盆の大雨で少しと濕盆ダつき云々と載せまた大坂日報（第百二號六月十九日）の雜報ゐ（近國にては此頃天氣が打續くゆゑ川々に水が少なくなり農家には植付ダ出來ずいとて困却てゐるとの事又近江の湖水も此頃は水ダ渇れて動ッの漁獵ダ至ッて不景氣云々と有ますから西方筋は水切ダつゝいたと看へます

○一昨日吹降の午後四時頃高島町四丁目富士見樓食坐敷の軒下に荒芽の樣の瓢繊半纏一枚着て紫縮のやうな細帶をいくぢもなく締めてゐる〳〵した壯年散髪の男ダ稗苗の聲のやうに志よんぼりと立て居るを通り行る巡査ダ看認て風体の看苦しい處ろゐら屯署へ拘引て糺問ると ハイ私しい新潟縣下越後國古志郡長岡本町二丁目料理渡世浸野兵左衛門の男當時い無宿の秀次郎と申して二十二年になりますダ先達て中西京で加賀出生の書工野村五山に雇れてをりますが內不圖本國へ歸りたく彼方を立去ましたダ道中の旅費に差支へ據ころなく各戸の門に立砂文字を書升て文久一ッの合力を受霹の命ダ凌ぎまして當港まで稍く參りましたダ此頃の雨降で所持の品も賣拂ひ此休裁に成ました疑ましく思召なら一寸砂文字を五覽に入ますと屯所の板敷（何やら書ましたを巡査